

地域密着型サービス 介護・医療連携推進会議 報告書

施設名：薫風 24 ケアサポートセンター
施設種類：定期巡回・随時対応型訪問介護看護

時期：令和 7 年 3 月 27 日
場所：薫風の丘 食堂（一部書面にて報告）

報告者
(人数)

利用者代表	1 人	高齢者あんしん支援センター職員	1 人
地域住民の代表	0 人	出雲市職員	1 人
その他（利用者家族代表・寿生訪問看護ステーション・訪問看護訪問看護ステーション彩雲・グロ一訪問看護ステーション様）			3 人

（議題）

I. 事業活動報告

《①利用状況報告》

月	R6 年 2 月	R6 年 3 月	R6 年 4 月	R6 年 5 月	R7 年 6 月	R7 年 7 月
人数	15 名	15 名	15 名	16 名	15 名	16 名

月	R6 年 8 月	R6 年 9 月	R6 年 10 月	R6 年 11 月	R6 年 12 月	R7 年 1 月
人数	16 名	15 名	14 名	14 名	15 名	15 名

令和 7 年 1 月末現在

要介護 1 ⇒ 5 名
要介護 2 ⇒ 4 名
要介護 3 ⇒ 4 名
要介護 4 ⇒ 2 名 平均介護度 2.2
要介護 5 ⇒ 0 名

《②事例報告》

80 歳代 女性 要介護 4

【既往】

脳出血、子宮筋腫、食道 裂孔ヘルニア、逆流性食道炎、尿路感染等

【利用開始の流れ】

家族のサポートを受けながら在宅で生活をされていたが、令和 6 年 9 月に食欲低下が見られ、その後体動困難な状況になり県立中央病院に入院となる。（肺炎、尿路感染、脱水の為）入院加療後徐々に状態安定してこられ、令和 6 年 12 月 13 日自宅退院と共に定期巡回サービスも利用開始となりました。

【経過】

提供させて頂いたサービス（定期訪問）は、水分補給、口腔ケア、下着交換、陰部洗浄、

ハルンバック内の尿の性状確認、破棄、体調確認（月、水～日 10:00～10:30、月～日 15:00～15:30）（全身清拭 1 回/週 木 15:00～16:00）です。訪問開始当初はケアに対し拒否的な様子もありましたが、徐々に関係性が構築され、訪問中の拒否も少なくなり、穏やかな様子も見られるようになりました。またご家族を含めた関係者間での連携もでき、特に健康面については、状態の変化に合わせて訪問看護の方に都度助言を頂きながらケアの提供を実施していきました。随時訪問に関しては、ベット下に落ちておられる事何度かありましたが、ご家族からの要請はなく随時訪問は行いませんでした。その後発熱等の症状が出現し、肺炎により 1 月 23 日市民病院となり、そのままサービス終了となりました。

《③今後の課題》

今回事業開始より初の外部サービス提供となったが、ご家族のご理解やご協力もあり、スムーズにサービス導入が出来たかと思われます。但し、サービス提供期間が短く、適切に提供が行えたのかの評価については十分な情報量でないと思われる為、今後も新規の利用者のサービス提供を積極的に行いながら、様々な経験を通し、より質の高いケアの実践が出来るよう努めていきます。

またサービスを利用される利用者様とご家族に対しても、丁寧な説明を行い、適切にサービスがご利用できるように支援していければと考えております。

《④サービスの質の向上にむけての取り組み》

ご利用者様の状態に合せて適切な支援ができるよう、心身の状態に変化等があった際は、タイムリーにカンファレンスを実施し、支援内容の検討を都度行い、連携している関係機関との協議の上、必要に応じて援助内容の変更を行っています。

また年間研修計画を作成のもと、毎月 1 回の職場内研修や、外部研修への参加もし、職員もスキルアップへ繋げていけるよう努めています。

《⑤その他》

広報誌の開始⇒令和 7 年 3 月～

各気居宅へ情報提供し、より定期巡回サービスについての理解を深めていけるよう広報活動を行っていく。

* 今後は発信する内容を都度変えていきながら、配布範囲も拡大していき、周知活動を強化していければと考えています。

Ⅱ. 質疑応答

質問①： 広報誌とはどんな物ですか。

『回答』

各居宅介護支援事業所へ向けての広報誌で、定期巡回についての概要等が掲載してある資料も以前お配りしました。今後は、対象範囲を拡大し、様々な方への情報発信が出来ればと考えています。

質問②：ICTの活用としておられますが、ソフトを使用していない訪問看護事業所様との情報共有はどのようにされていますか。

『回答』

基本的に緊急でない場合については、訪問に来られた際に報告をし、急ぐ場合には電話連絡にて報告・相談を行っております。

*現在その方法で不具合等はありません。

質問③：サービス提供地域については、どこまでが対応可能でしょうか。

『回答』

出雲市内（平田、大社、佐田、湖陵、多伎を除く）が対象エリアとなっております。それ以外の地域につきましては、個別で相談頂き、可能であればできる限り訪問させていただければと考えております。

質問④：地域でのサービス提供状況はいかがでしょうか。また、新規のサービス開始が出来るよう、広報活動等を引き続きよろしくお願いします。

『回答』

1件サービス提供をさせて頂いておりましたが、現在は終了しております。
新規の方については、ケアマネジャーの方よりご相談はありましたが、開始には至っておりません。

質問⑤：地域でのサービスを提供した際の課題などありましたでしょうか。

『回答』

今回のケースについては、提供場所が近隣であった事、日中随時が少なかった事、訪問看護との連携がスムーズであった事、ご家族のご理解やご協力があった事等があり、大きな問題がなくサービスが提供出来たのではないかと思います。

質問⑥：ヘルパー利用の際、サービス提供をする方の男女比はどういう状況なのか。女性が良い等の要望はどのくらいあるのか。

『回答』

当事業所においては、7割程度が女性スタッフではありますが、ご利用者やご家族より同性介助の希望や、特定のヘルパーでの対応の希望があった場合は、可能な範囲ではありますが、極力ご要望にお応え出来るよう努めています。

質問⑦：ご利用者の心身機能の変化により、計画の修正が必要な場合のカンファレンス等には、訪問看護も参加した方が良いでしょうか。

『回答』

看護サイドからの助言等に関しては、従来通り電話や書面でのやりとりで良いかと思えます。今後も頂いたご意見を踏まえた上で、計画作成責任者を中心にカンファレンスを実施した後、ケアマネージャーへの報告・相談を引き続き行っていきます。

質問⑧：ヘルパー訪問時にご利用者の転倒があった場合等に、看護サイドより、一時的に訪問回数増等を依頼した場合はどんな流れで事業所内にて、報告・相談・決定がなされているのですか。

『回答』

当事業所におきましては、昨年より訪問時の際等でヘルパーでの判断が難しい事案の場合は、計画作成責任者へ報告・相談ができるよう、常時連絡がとれる体制を構築しております。ですので、まずは責任者へ報告をした後指示を受け、その指示の上で対応をするように努めております。

《その他ご意見》

・事業所としての評価はあるが、その評価に対しての法人としての意見がなく、法人全体としてどう考えているのかが分からない。今後は法人としての評価、コメントを添えて報告するとより良いのではと思います。

『回答』

ご指摘の通りですので、次回よりそのようにさせていただきます。

・サービス評価表の事業所コメント欄について、評価する指標としての具体的な取り組みやそれに対しての結果等の記載がないので、コメントしにくいです。

『回答』

次回からは、皆様に取り組みの様子等が分かるよう必要に応じて資料等も準備し、様々なご意見が頂けるよう工夫致します。

当日はお忙しい中、ご参加頂きまして、誠にありがとうございました。

今後も皆様より頂戴いたしました貴重なご意見を基に、更なるサービス向上に努めてまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

薫風 24 ケアサポートセンター
管理者